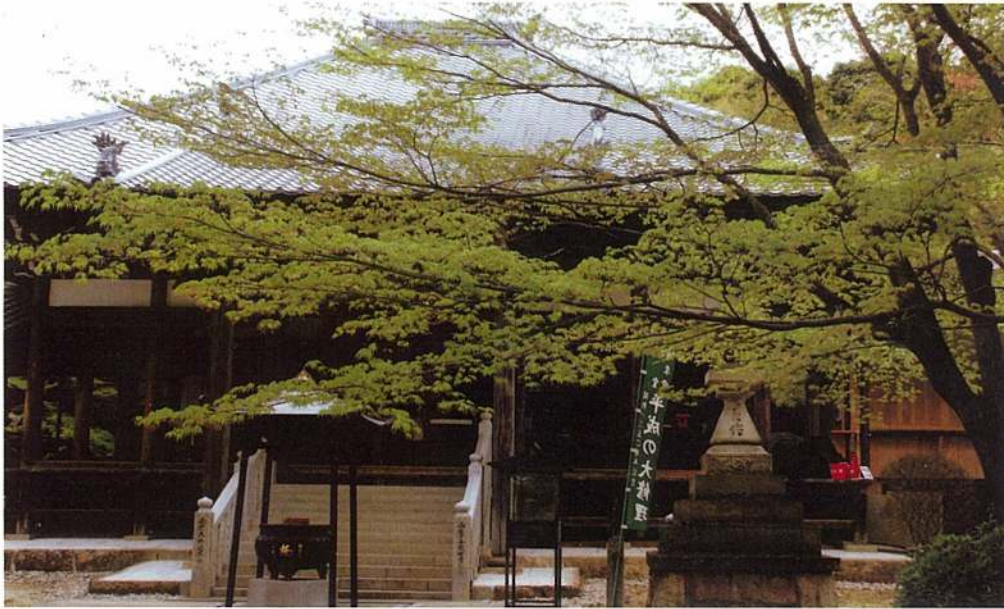




千の手

山 犬
つが お かのん
継鹿尾観音
寂光院



「平成の大修理」を終えた直後の〈本堂〉 (H22.4.15 撮影 浦畑猛司氏)

寂光院「青もみじ」

尾張最古刹・千手観音霊場、

霊山「継鹿尾山」を詠む

春は花、夏ほととぎす、秋は月、冬雪さえて冷（すず）しかりけり

これは曹洞宗の祖、道元禅師のお歌です。日本の四季、自然の風光を見事に三十一文字で歌い上げておられます。さて、寂光院のある継鹿尾山（つがおさん）は飛騨木曾川国定公園にあり、四季折々の風光は県下屈指と親しまれてまいりました。昨今、寂光院は「尾張のもみじでら」と称され、紅葉の名所としての名だけが一人歩きしていますが、実は紅葉に劣らず、新緑、若葉のころは、実に爽やかで、鮮やかです。今では秋のもみじに対して、「青もみじ」と称され、この時期にお参りになる方々が多くなりました。

寂光院では三月末からのソメイヨシノの「桜」から始まり、四月上旬く中旬にかけての「山桜」「しだれ桜」、可憐でなんとも美しい紫色の「山つつじ」、四月下旬から五月連休のころの清楚に群生する「しゃが」そして「つつじ」から「さつき」へと、咲き乱れる花を包むような寂光院の「青もみじ」は、秋の紅葉に劣らず見事です。

寂光院のある継鹿尾山はかつては「霊山」と呼ばれてきました。尾張最古刹・千手観音がいます霊気満つる山寺であることは今も昔も変わりません。しかし昨今はそれを「パワースポット」と呼ぶようになりました。呼び方は変わっても、凛とした霊気を実感できるのは山寺ならではのことでしょう。

そこで寂光院の四季、自然の風光を

春は「花」、夏「青もみじ」、秋は「紅葉」、冬凛として「霊気」漂う

としましたが、さて如何でしょうか。

（花の写真は三頁を参照下さい。文責・松平）

何のために生まれてきたのか

これは人間に生まれた者の永遠のテーマでしょう。解答なんてありません。あればすべてが正解で、これだけが正解だなんていうことはありえません。

誰でも願って生まれてきたわけではありません。気がついてみたら生まれていたので。誕生は自分の意志と努力では到底及ばないところで決定されます。私は男に生まれたいと願って生まれてきたのではありません。気がついてみたら男だったというわけです。日がらが良からこの日に生まれたい、と願ったわけではありません。気がついてみたらその日が私の誕生日なんだと納得させられただけなんです。私も早六十四にもなりました。高齢者といわれる年になってもなおこ



使命

犬山・寂光院山主

まつ だいら
松平 じつ いん
實胤

の体(てい)たらくです。しかし、私はそうですが、きつと父も母も、おじ様もおば様も、とにかく私の命つながるご先祖の一人お一人皆そうだったんじゃないかと、不尊を承知で思うのです。この世に生まれてきた人はすべて例外なく、気がついてみたら生まれていたいということでしょう。

となれば、何のために生まれてきたか、あなたの使命はなんて問われたら面喰ってしまいます(どうも社会的役割、ミッションのつもりで使命を尋ねる人が多すぎます)。

とりあえず「私」の解答は、「そんなことわかるはずがない」です。しかし、私は幸いにも仏教徒です。釈尊のお智慧をお借りすれば「知足」、無条件の感謝でしょう。「とにかく生まれてきてよかった」と

しか言いようがない、いや、縁あつて戴いた命ですから、最後のその時その一瞬まで精一杯生きる、これが私たち生を得たものの務めではないかと思えます。もし使命を問うなら、使命は「命を使う、生きること」、今この世で生きている人はすべて、立派に使命を果たしておいになる、例外はありません。

何のために生きるのか

これも私の解答はせいぜい「そんなことわからない」です。とにかく六十四まで生きてきてこの体たらしです。なんと情けないと放逸に過ぎた人生を後悔することしきりです。

しかし、ここは仏教徒らしく考えてみたいと思います。(あくまでも

定年といわれる年を迎えた者の解答ですから、家族に対する責任、社会に対する責任、等々を具体的に抱えてみえる方はまずその責任を優先してください)

誰でも裸で生まれて、裸で死んでいきます。地位・名誉・財産などすべて、死の旅路には持っていけません。持っていっても灰になるだけです。人生の目的は地位、名誉、財産ではありません。持っていけるとしたら、心というか、魂というか、それだけでしょう。どれほど魂を輝かせるか、魂を浄化できるかが問われるところでしょう。それには日常生活をどのように送つたらいいのか、、、(以下次号)



石段320段を登ると本堂、その脇に筆を手にした筆弘法さま、その周りに十二支の生れ年の本尊さまを祀る十二支恵当守り本尊霊場、それが絶景展望台でもあります。その周りの桜を下から見上げてみました。(4月上旬)



スロープカー山麓駅の前に十三重の塔があります。紅葉の人気スポットですが、春は「しだれ桜」と新緑「青もみじ」が見事です。(4月上旬)

寂光院の春

観音さまに会いたくば
春もまたよし継鹿尾山



寂光院は木曾川畔の愛知県側の継鹿尾山の中腹にあります。絶景展望台から川向こうの岐阜県側を一望してみると…もちろん名古屋の超高層ビルも鈴鹿の山並も小牧山も国宝犬山城も手にとるように…(4月中旬)

中 日 衆 新 聞

11 尾近知総合 尾・近 2010年(平成22年)5月4日(火曜日)



大山市継鹿尾の寂光院で、シャガはアヤメ科の多年草。花丈は五十センチほどで、白っぽい花弁に紫と黄の模様がある。古い時代に中国から日本に入ってきたとされ「コチヨウカ(胡蝶花)」の別名も。寂光院では、林の木陰で清楚な花が風に揺れている。「新緑のモミジですが」

「胡蝶花」清楚に

大山 寂光院でシャガ開く

しく、「一番良い季節」と松平実胤山主。シャガは中旬まで楽しめるという。(野末幹雄)



「紅葉がきれい!!」と思わず皆さんが声をあげる人気スポット、お見送り大師さまの前です。「青もみじ」も負けてはいません!!(4月中旬)

(撮影:浦畑猛司)

本堂、随求堂、仏像四十一尊等を修復 四年に亘る大事業の成満を盛大に慶祝

愛知
寂光院

平成の大修理落慶法要

愛知県犬山市の尾張最古刹・
継鹿尾観音寂光院（松平實胤
師）では去る十月十七日平成
の大修理落慶慶祝法要を盛大
に厳修した。同山は孝徳天皇
の勅願により白雉五年（六五
四）南都元興寺道昭和尚が七
堂伽藍を建立。以後荒廃の非
運にも遭遇したが、永禄八年
（一五六五）、織田信長が参詣
の際、同山を清洲城鬼門鎮護
の靈刹として黒印五十石並び
に山林五十余町歩を拝領し寺
門が栄え、また本尊千手観世
音菩薩は厄除・諸願成就の靈
驗あらたかな観音尊として信
仰を集めている。平成十六年
には開創一三五〇年を迎え弁
天堂、薬医門、随求堂、本堂
の四棟が国登録文化財に指定
されたが、文化庁や犬山市の
勧めを受けて、本堂・随求堂
を中心に「平成の大修理」を
発願、この程四年に亘る大事



護摩供を修する松平山主

業を成満させた。法要当日は
好天に恵まれ、午後二時より
山麓の聖徳殿から導師の松平
山主、職衆、稚児、御詠歌講
らが進列、途中不動堂前で法
樂を捧げ、本堂までの石段三
百二十段を練供。続いて本堂
前での庭儀、稚児加持の後、
本堂へ入堂。松平山主が登壇
して、寺歴や事業概要と共に
同山守護と檀信徒の家門繁栄

を願う敬白文を表白し、慶祝
大護摩供を奉修した。続いて
名鉄犬山ホテルを会場に式
典・祝賀会を開催、約百五十
名が参列した。はじめに平成
の大修理奉賛会から桑原正則
副会長が開式の辞、谷口清太
郎会長が挨拶を述べ、経過報
告の後、智山派東海教区長神
野實圓師より阿部管長名の表
彰状が施工・修復業者五社
（株）竹中工務店、（株）ア
イチケン、（株）坪井利三郎
商店、（株）奥村仏具店、（有）
宗教美術工房へ手渡された。
来賓祝辞では神野教区長が



修復落慶なった本堂前での庭儀

「松平御山主は智山専修学院
教授や講演等で繁多の中、輪

「平成の大修理」落慶記念

秘仏「本尊」千手観世音菩薩

特別大開帳

平成二十二年十一月五日〜七日

「平成の大修理」落慶を記念して、本堂の秘仏「本尊
「千手観音」様の特別大開帳が厳修されました。あわせて、
「随求菩薩」、並びに「平成の大修理」で修復されました
四十一体の仏像が特別公開されました。

当山では秘仏「本尊千手観音様は千十二支の甲子年
つまり六十年に一度、特別に開帳されるのですが、今回は
百年に一度といわれる「平成の大修理」の落慶を記念
して厳修されました。記録によりますと大正十三年、甲
子園球場ができた甲子年に厳修されています。前回は昭
和五十九年で、また、真言宗の祖、空海弘法大師ご入定
一二五〇年御遠忌記念の年でしたので特別大開帳も実に
盛大に五日間行われました。実は今回は二十六年ぶりとい
うことになります。そして、次は二〇四四年です。

おかげさまでこの三日間は秋晴れの上天気で、参詣の
方々も全国各地から実に一万人を超す勢いでした。

NHKテレビ・正午のニュースで放映！

十一月六日（土）正午の全国のニュースのあと、東海
地方のニュースに切り替わった冒頭で、六日午前中の寂
光院の大開帳の様子が詳しく紹介されました。その四〇
分後の午後一時頃から、ご参詣の方々が刻一刻と増え、
秘仏本尊千手観音様に詣でる人は長蛇の列となりました。
三時過ぎる頃から、寂光院周辺の道路が渋滞をはじめ、
交通整理を要するほどとなりました。実はNHKはラジ
オ放送でも大開帳のアナウンスを折々にされたそうで、
車の中で聞いてきたという人が後を絶ちませんでした。
最終日の七日はそれこそ大勢の参詣の方々が「平成の大
修理」の落慶記念行事に参加くださいました。

ここに謹んで御礼申し上げます。

奥の美を整えられた。本日の慶びを契機として寺檀協力しての益々の隆昌を祈念している。衆議院議員石田芳弘氏が「御山主とは中高の先輩後輩の間柄で、何か悩みがあると観音様にお参りし、御山主と対話をしている。この落慶で犬山に心の支えとなるものが築かれた」犬山市長田中志典氏が「今般の修復は伝統文化・匠の技を継承した技術で行われ、地域にとっても大変意味深い」とそれぞれ祝辞。また阿部智山派管長、開基道昭和尚ゆかりの南都元興寺ほか多数の祝電も披露された。それを受けて松平山主より「歴史のある寺なので、新建立ではなく、根気のいる修復が私の仕事だと思いつて来たが、本堂や仏様が甦って輝き喜んでゐる。仏教には「供養」という言葉があり、尊敬の気持ちる形を表すことを意味するが、皆様の観音様を尊敬する気持ちにより修理が成満した。また供養の中には喜びを分かち合う「随喜」という一番難しいとされる供養があり、本日一緒に喜んで頂くという供養の功德は計り知れないものです。本日はお席に

限りがあり、お世話になった方全員をお招き出来なかったことが心残りです。」と感謝の謝辞があり、大修理奉賛会副会長社本宮明氏の挨拶をもつて式典を終了。続いて智山派宗務総長・大須観音寶生院貫主岡部快圓師による「大修理完遂、宗派僧侶の育成、檀信徒へ安らぎを与えるなど、御山主の御本尊と同じような千手千眼の御活躍には心より敬服している」との挨拶で乾杯、宴中は工事スライドショーもあり、和気藹々と落慶を祝った。

山は「もみじでら」の愛称でも親しまれるが、今秋は名古屋鉄道（名鉄）の観光ボスタ一のモデルに本堂と作務をする松平山主が採用されたこともあり、連日大勢の参拝者で賑わっている。

当日の配役は左記各師。

（導師）松平實胤（職衆）松平實城（福生院）、吉田承啓（西福院）、長谷川実彰（大智院）

（大智院）鵜飼五大（性海寺）、大藪照心（地藏寺）、堀江澄隆（東福院）、伊藤禎悠（善福院）、澁谷幸城（千手院）、松平實心（法累師）

（岡部快雅（総務））木村達章（弥勒寺）（浄書）堀江承元（大徳院）（会奉行）安部隆俊（護国院）（庭奉行）佐伯光瑞（常光院）（列奉行・道場係）竹島照暉、鵜飼泰宏、堀江泰史、安部隆智、松平實元（随喜）

（岡部快圓（寶生院）、神野實圓（不動院）、宮本照剛（名古屋成田山大聖寺）、高井隆成（上品蓮台寺））

（鵜飼亮祐（恵明寺）、竹島照般（萬福院））

（六六新報平成22年11月25号）

スロープカー大活躍

寂光院の本堂・随求堂・十二支恵当守り本尊・筆弘法大師を祀る絶景展望台は庫裡事務所から始まる七福坂の三二〇段の石段を上がった山上にあります。

お参りですから、石段参道を登ってお参りすること自体が心を養う修行です。

是非とも健康健脚の御利益が戴ける石段参道をお勧めします。

しかし、登るのに自信のない方、足のご不自由な方はお参りしたくてもできないお寺でもありました。しかし、「平成の大修理」落慶を機に、どなたでも修理を終えた本堂にお参りできるようにと、この度スロープカーが新設され、運行をしております。

十一月五日から七日の秘仏本尊千手観音「特別大開帳」にはかつて本堂にお参りしたくてもできなかったという方々が、大勢スロープカーを利用して本堂にお参りされ、一様に感激を心満たされてお帰りになりました。

引き続き十三日からの「もみじまつり」はスロープカーは連日長蛇の列となりました。

【仕様】

一般のエレベーターと同じ全自動呼び出し押しボタン方式。どなたでも乗降できます。定員は六人。全長一六〇メートル、高低差九〇メートルを四分で結びます。本堂までの中間地点にある不動堂でも止まります。運行は原則として毎日午前九時から午後五時まで。



スロープカー・山麓駅



②

不動堂の厄除不動様にお参りを済ませて法螺貝（ほらがい）の音（ね）高らかに！！
あと一息で本堂です。



①

山門前を通過。
さあ本堂迄320段。
稚児練行列出発（シュツパーツ）！！



④

法累師・会奉行（えびぎょう）・合鉢（あいばち）の皆様
の列が続きます。本堂脇を通過！！



③

320段を登り終えてご詠歌講の皆様
の先導で本堂前広場
に向かいます。



⑥

本堂前での庭儀（ていぎ）で洒水加持をする山主。職衆
の皆様は散華（さんげ・天女が法要に感激のあまり華を
散ずる）されています。



⑤

華籠（けこ）を手に職衆（しきしゅう）の皆様が続きます。
ご来賓のご随喜（ずいき）の皆様も列に加わって戴
きました。



⑧

本堂に入り落慶の法要が始まります。ご本尊千手観音様・修復なったお不動様が見守って下さいます。



⑦

行列の華は何といってもお稚児さん。このご縁が良き成長の支えとなりますように山主がお加持をしながらお稚児さんとお話し！！



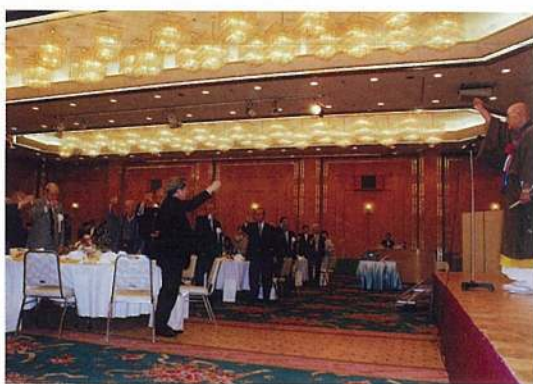
⑩

落慶式典で挨拶をされる奉賛会長・谷口清太郎様。満88才とは到底思えません。お骨折ありがとうございました。



⑨

「平成の大修理」が一件の事故もなく落慶出来た喜びと感謝と敬いの心をご本尊千手観音様にご報告！！



⑫

ご来賓の真言宗智山派宗務総長で別格本山大須観音實生院ご貫主の岡部快圓師の発声で乾杯（カンパイ）！！



⑪

ただただ皆様に感謝！！「席に限りがあり、お世話になった方々全員に御礼を申し上げられないのが心残りです」と申し上げるのが精一杯の山主。

きりとり線

七ヶ月お参りすると大願成就!! (心の養い)

◎七ヶ月まいり

○五日 健康長寿 大随求尊縁日

○十八日 一心祈願 千手観音縁日

・各十時半より、大護摩祈祷と松平山主の法話
・名鉄犬山遊園駅よりバス運行

「縁の日が縁日

いつでもご都合のよろしい日が縁日。
七ヶ月まいりの受付は年中無休です。

◎やすらぎ説法 毎月第二日曜日 十一時

月例行事

寂光院友の会 千手会ご案内

千手会は寂光院に心を寄せて戴いている皆様の集いです
千手会にはわずらわしい制約は一切ありません
千手会はすべて自由参加です 是非ご入会下さい
(毎月の「やすらぎ説法」は千手会の催事です)

きりとり線

千手会申込書

正会員 (二口三千円) 口 円
賛助会員 (二口三万円) 口 円

住所 〒 右申込致します

氏名

おとし

電話

年 月 日

お写経の集い (般若心経を読む・聞く・書く)

とき 毎月第二・第四
日曜日午前十時静寂な山寺のお堂の中
でみ仏と対座して一心に
筆を取る。般若心経一巻
をお写しするのに一時間
程かかります。お写経の前には松平山
主と共に読経

松平山主の法話

◎写経用具は当方にとり
揃えてあります。

お気軽にご参加下さい。

前田道雄 写仏教室

写仏はまったく初めて
の方を対象に基礎の基
礎から始めます。

とき 毎月第三土曜日

午後一時

松平實城 ご詠歌教室

ご詠歌はまったく初め
ての方を対象にとても
「楽しく」「優しく」教
えて下さいます。

とき 毎月十八日

午後二時

寂光院への連絡方法

- ①電話 0568 (61) 0035
- ②FAX 0568 (61) 5953
- ③〒振替 00800-4-40664
- ④ホームページ

<http://www.jakkoin.com/>

発行所

継が鹿尾観音 寂光院

〒四八四-〇〇九一

愛知県犬山市継鹿尾山
平成二十三年二月十八日発行
(第四十七号)